

SWEDISH CENTER FOUNDATION

Björk

ビヨルク

Newsletter January 2025

vol. 162



CONTENTS

ヴィクトリア・リー駐日スウェーデン大使年頭メッセージ

アーティスト・イン・レジデンス：AiR2024 年報告

SCF レポート：ルシア祭 他



第 162 号

Björk

—ビョルク—

③

駐日スウェーデン大使
年頭メッセージ

④

新年のご挨拶

⑥

SCF

Artist in Residence

⑧

Artist in Residence
滞在記

⑩

クリスマスフェア

⑫

ザリガニパーティー

⑭

廣木重之氏
特別講演会

⑮

スウェーデンマラソン

⑯

スウェーデンソングコンテスト

⑰

スウェーデン関連書籍紹介

⑱

Ska vi fika?

発行日： 2025 年 1 月 1 日

発 行： 一般財団法人スウェーデン交流センター

協 力： 株式会社スウェーデンハウス

発行人： 村井 秀壽

編集人： 和島 美樹、ホルム ヨナス

ヴィクトリア・リー 駐日スウェーデン大使
年頭メッセージ

A New Year's Message from

Ms. Viktoria Li, Ambassador



Dear Friends of Sweden,

As the newly appointed Swedish Ambassador to Japan, I am delighted to extend my warmest New Year greetings to you all.

I arrived in Japan in early September, and on 13 November I had the honor to hand my Letter of Credence to the Emperor in a beautiful ceremony at the palace in Tokyo.

In early December, we were happy to welcome Prime Minister Ulf Kristersson, Defense Minister Pål Jonson, Minister for Energy, Business and Industry Ebba Busch, and Minister for Development Cooperation and Foreign Trade Benjamin Dousa to Japan. This was the first visit to Japan by a Swedish Prime Minister since 2008 and the Ministers were accompanied by a large business delegation.

During the visit, a Strategic Partnership between Japan and Sweden was announced. This partnership upgrades our bilateral relation. It creates a platform for closer cooperation regarding security, trade, investment, research, and culture. It is also underlining our shared interest in meeting global challenges and promoting a sustainable and green transition. It is building on the solid foundation of more than 150 years of diplomatic relations.

Looking ahead, we are excited about the upcoming World Expo in Osaka in 2025, where Sweden is a partner in the joint-Nordic pavilion. We will showcase our collective strengths in sustainability, technology, and culture, and develop our cooperation with Japan. I hope many of you will be able to come and meet us at the “Nordic Circle” .

As we step into the New Year, I am filled with optimism for the future of Swedish-Japanese relations.

I look forward to travel in Japan and to visit Hokkaido as soon as possible.

May 2025 bring prosperity, health, and happiness to you and your loved ones.

Warm regards, Viktoria Li
Ambassador

スウェーデンの友人の皆さまへ

このたび、新たに駐日スウェーデン大使に就任しましたヴィクトリア・リーと申します。

皆さまに新年のご挨拶を申し上げます。

私は昨年9月初旬に日本に着任し、11月13日に皇居にて天皇陛下に信任状を捧呈する光栄に浴しました。

12月初旬には、ウルフ・クリステション首相、ポール・ヨンソン防衛大臣、エバ・ブッシュ・エネルギー・産業大臣、ベンヤミン・ドゥーサ国際開発協力・外交貿易大臣が訪日しました。スウェーデン首相の訪日は2008年以来であり、大規模な経済使節団も同行して、日本との関係をさらに深める重要な機会となりました。

今回の訪問では、日本とスウェーデンの戦略的パートナーシップが発表されました。このパートナーシップは、安全保障、貿易、投資、研究、文化の分野におけるより緊密な協力関係を構築し、二国間関係を向上させるものです。また、150年以上にわたる外交関係を基盤に、持続可能でグリーンな未来への取り組みという共通の関心を強調するものです。

2025年には、大阪・関西万博が開催されます。スウェーデンは北欧共同パビリオン「ノルディック・サークル」の一員として、持続可能性、技術、文化における強みを発信し、日本との協力をさらに深めていきます。多くの皆さまにご来場いただけることを願っております。

新年を迎え、スウェーデンと日本の未来に期待する気持ちでいっぱいです。

北海道を、また日本各地を訪問することを楽しみにしております。

2025年が皆さまにとって健康と幸福に満ちた一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

ヴィクトリア・リー
駐日スウェーデン大使

GOTT NYTT ÅR!

謹んで新年のお慶びを申し上げます

旧年中は、当財団の活動に対し、温かいご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。
本年も旧年と変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。



昨年は、ヴィクトリア・リー新大使の着任により、スウェーデンと日本の結びつきがより一層強化されたことを象徴する一年となりました。両国の協力関係が経済・文化両面で着実に広がりつつあります。当財団は本年も引き続き、スウェーデンと日本の架け橋として、双方の産業・文化の発展に貢献すべく努めてまいります。

結びに、みなさまのご健勝とご多幸、そして実り多き一年となることを祈念し、新年のご挨拶といたします。

一般財団法人スウェーデン交流センター 理事長 村井秀壽

センターに協賛しています



遠州紙工業株式会社



株式会社
オールシーズン

越智建設株式会社

カメイオート北海道株式会社

小西工業株式会社

株式会社 小林住工



西條産業株式会社

株式会社 札幌トールン

新空調エンジニアリング
株式会社

株式会社 新晃建設



株式会社

スウェーデンハウスリフォーム

大栄建工株式会社

タイヨー株式会社

有限会社 たきお水道



株式会社 玉 善



当別町商工会

当別・レクサンド
都市交流協会



当別
ロータリークラブ



株式会社トールン

株式会社 中川

有限会社 長島設備商会



NAKANISHI PRINTING CO.,LTD.
中西印刷株式会社

株式会社 長嶺設備工業



総合電気設備工事設計施工
馬場電気工業株式会社



富士ホームエナジー
株式会社

株式会社プライムトラス

プレスト株式会社



北海運輸株式会社
Hokkai Transportation Co.,Ltd.



公益社団法人
北海道国際交流・協力総合センター
HIECC/ハイエック

北海道スウェーデン協会



森川綜合紙器株式会社

ヤクシン開発株式会社

株式会社 ワコー

(五十音順)



私達はスウェーデン交流



株式会社 飯田工務店

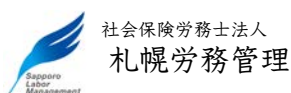
池下紙業株式会社

株式会社 石川建設

株式会社 関東トウウン

株式会社 クロスト

ケイヒン株式会社



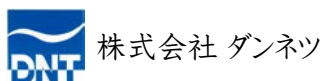
株式会社 サン・クリーク

株式会社 椎谷建設

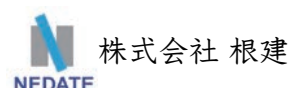
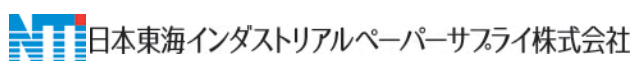
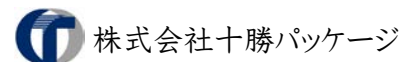
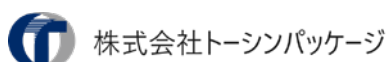
清水ダンボール株式会社



仙台紙器工業株式会社



辻野建設工業株式会社



有限会社 蜂谷建設



北新マテリアル株式会社



株式会社 ホクヨー

株式会社 ホリカワ



「対話」と題した展示会の初日にて、アートに触れる機会であると同時に、懐かしい再会や新しい出会いの機会にもなりました。
(9月7日 SCF センターホール)



Artist in Residence2024

SCFアーティスト・イン・レジデンス

2024年 8月30日(土)～9月27日(金)

招聘作家 カール・グスタフ・イェンソン(木工)
フムラン・ランゲ(絵画)



5年ぶりの「A・i・R」

スウェーデンの優れた芸術家を招聘し、創作活動を行ってもらうと同時に双方の異文化交流を促進することを目的とした「アーティスト・イン・レジデンス(A・i・R)」プログラムを、5年ぶりに開催しました。今回は、ストックホルムを中心に活動するカール・グスタフ・イェンソン氏(木工)とフムラン・ランゲ氏(絵画)の夫妻が、約4週間スウェーデンヒルズに滞在し、さまざまな活動を行いました。

作品展示会初日には多くの方が集まり、作品解説に耳を傾けながら作品を鑑賞しました。夫妻は'98年にかけてSCF木材工芸工房のインストラクターとして家族で1年間滞在した経験があり、当時の写真や思い出話の披露も。親交のあった方々も駆けつけて、27年ぶりの懐かしい再会に笑顔があふれました。ワークショップシリーズでは和気あいあいとした雰囲気の中、手仕事に親しむ「芸術の秋」らしいアート体験をお楽しみいただきました。



カッレさんと一緒に、スウェーデンヒルズの白樺を使ってスプーンを作るワークショップ。切れ味抜群のナイフはスウェーデンの老舗・モーラナイフ社のご提供によるもの。スプーンを彫るための「フックナイフ」も体験。美しい秋空の下、手を動かす楽しさを味わいました。(9月21日)



フムランさんと一緒にのびのびとお絵描きを楽しむワークショップ。自分よりも大きな紙に子どもたちは大興奮！等身大の自分をトレースして、思い思いに「なりたい自分」を表現しました。(9月22日)

自由に糸や編み方を変え、隣の人と編み地を交換しながら、純粋に「編む楽しさ」を共有する時間を体験しました。たくさんの方の笑いとおしゃべり、もちろんコーヒーとお菓子も一緒に、手仕事の楽しさは世界共通であることを確認しました。(9月22日)



AiR 2024 滞在記

フムラン・ランゲ&カール・グスタフ・イェンソン

8月27日に暖かいストックホルムを発ち、ロシア北部を経由する長いフライトを終え、新千歳空港に到着しました。到着ロビーでは、以前から継続的に連絡を取りあっていたSCFの和島さんが出迎えてくれました。

私たちが最後に会ったのは2018年、SCF設立35周年記念の作品展やイベントに参加した時でした。実は、カール・グスタフにとって最初のSCF訪問は1986年で、センター開館の記念として開催されたカール・マルムステン学校の作品展のために、学校を代表しての訪問でした。その後、私たちは子供たち（エリック、イネス、アクセル）と共に再び来日し、木材工芸工房のインストラクターとして97〜98年に1年間滞在して、工房で家具製作に取り組みました。

今回またスウェーデンヒルズに戻ってこられたことは夢のようで、長年の願いが叶った瞬間でした。住宅がずっと増



えていて、同じ場所とは思えないほどでしたが、当時と変わらない雰囲気があり、以前暮らした家もそのままでした。

到着後すぐに展覧会のセッティングを始めました。初日のオープニングレセプションとアーティストトークには大変多くの方々にお集まりいただき、中には27年ぶりに再会する方々もいらっしゃいました。皆、年を重ねましたが、これまでの間も連絡を取り合っており、今回対面で、eメールではなかなか表現しにくいことも直接お話しできたことは非常に感慨深いものでした。

滞在中、多くの懐かしい方々との旧交を温める機会に恵まれました。花田さんのお宅では、私たちのところとよく似た植物やハーブの庭を見せていただき、素晴らしい夕食をご馳走になりました。また、佐藤さんには美しい庭や稲田の散策



上) 27年前、SCFのインストラクターとして滞在していた時の一枚。小学生だった子どもたちは地域の小学校に通い、たくさんの友達を作りました。

左) 展示会初日のイベントで、作品を解説するフムランを見守るカッレ。スウェーデンヒルズの思い出話にも花が咲きました。



の後、贅沢なランチを振る舞っていただきました。そして、鎌田さんとは楽しい食事を一緒にし、ガラス工房の甲斐さん、咲輝さんも一緒に、トーベさんのギリシャ料理を楽しみました。

SCFでは、手仕事に親しむ3つのワークショップも開催しました。カール・グスタフは、モラナイフ社の協賛のもと、スウェーデンヒルズの白樺を使ってスプーンを彫るワークショップを屋外で実施しました。秋の心地よい日差しの中、皆さんとても熱心に作業していました。フムランは、編み物に焦点を当てたワークショップを行い、参加者が集まっておしゃべりしながら編み物を楽しみ、庭の木や戸外にあるものをニットで包むというアーティスティックなアイデアを提案しました。また、子供たち向け



日瑞の国旗を背景に、花田さん夫妻と。

のワークショップでは、自分の体の輪郭を描き、そこに夢のキャラクターをデザインするという活動を行いました。

滞在中には、北海道内のさまざまな場所へ車で何百キロもの研究旅行にも出かけました。山道を登り、霧で見えにくい道を抜け、美しい谷、川、湖、大海原の風景に感動しました。

旭川では、長年の友人である板垣さんを訪ねました。板垣さんは以前家族でスウェーデンに滞在していたことがあり、SCF木工房でアシスタントも務めていた方です。旭川デザインセンターや道立旭川美術館を見学し、美しい彫刻公園を散策しました。また、東川町では家具



SCF 中庭で行ったスプーンを彫るワークショップ。

職人の大門厳さんと息子の和真さんに会い、ショールームで工芸作品や家具を見せていただきました。この素晴らしい一日は美味しい食事と快い眠りで締めくくられました。

北海道おといねっぶ美術工芸高等学校では、私たちの作品やインスピレーション、ストックホルムに構えるアトリエの紹介などのプレゼンテーションを行った後、美術や工芸を志す生徒の皆さんたちと交流する機会を得ました。好奇心旺盛な若い人たちと触れ合えたことは、非常に学びの多い楽しい経験でした。

当別で活動する染織家の小島さんと絵画の浜地さん、木工家の須田さんと小林さん、江別で工房を運営する石井さんとの出会いも大変興味深いものでした。

温泉が大好きな私たちは、方々の温泉を薦められては出かけました。新篠津のお湯は素晴らしいかったですし、積丹で夕日を眺めながら入る温泉も最高の体験でした。海水浴も大好きなので、石狩湾の波で再び泳ぐことができたのは大きな喜びでした。

ほかにも、北海道立近代美術館、モエレ沼公園、十勝の森、網走の散策路、然別湖や神威岬など、訪れたすべての場所が忘れられない体験となりました。

南出専務理事をはじめ、SCFの皆様が心から感謝いたします。ワークショップ

プを手伝ってくれた島田さん、本当にありがとうございました。懐かしいお友達の伊藤さん、小学生だったイネスの友人の石田さん一家、エリックとイネスの担任だった亀浦先生、そして新たに出会えた皆様にも、深く感謝申し上げます。

この滞在の経験は私たちの人生に新たな章を刻み、素晴らしい思い出として心に残るでしょう。またお会いできる日を楽しみにしています。

寄稿者紹介

画家 フムラン・ランゲ
Humlan Lange

木工作家 カール・グスタフ・イェンソン
Karl Gustav Jönsson

ストックホルムを拠点に活動する木工と絵画の芸術家夫妻。2人の共同アトリエを運営し、作品を受注制作するほか、二人展や個展、グループ展など国内外での発表活動も多数。大学など美術学校での教師も長く務めた。スウェーデンヒルズでの滞在は27年ぶり。

27年前にも何度も訪れたお気に入りの場所、石狩のビーチにて。



★ご存じですか？

スウェーデンのサンタは「ユールトムテ」と呼ばれ、その起源にはヤギが関係していると言われています。昔、ヤギの仮面をかぶった人が「優しい子はいらるかな？」と尋ねて家々をまわりました。今でも、わらで作ったヤギをクリスマスに飾る習慣があります。



光のお祝い「ルシア祭」

11月末からクリスマスまでの期間、「クリスマスフェア」を開催しました。恒例のクリスマスマーケット、ガラス作品の特別販売に加え、コロナ禍で休止していたルシア祭を再開。スウェーデンの冬の行事をお楽しみいただきました。

工房棟では手作りに親しむクラフト教室も開催。ガラス工房ではペーパーウェイト作り、木工房ではクリスマスの窓辺を彩る星形ランプの制作に挑戦していただきました。マーケットの一角に用意した工作コーナーは子どもたちに人気で、クリスマス飾りの紙工作をご紹介します。



「ルシア祭」は、ルシアが寒い冬に光をもたらすという伝統行事。地域の子どもたちと一緒にルシアの歌をスウェーデン語で披露しました。スウェーデンヒルズの人気レストラン「アリ」提供のルッセルカッテル（サフランパン）は大好評！ルシアに欠かせないお菓子やホットワインも紹介し、集まったお客様同士笑顔で歓談する姿が見られました。







Kräftskiva

ザリガニパーティー2024

2024年 8月25日(日)

夏恒例の「ザリガニパーティー」をスウェーデン交流センター中庭で開催しました。北海道・阿寒湖で獲れたザリガニを使い、スウェーデンの夏のパーティーの雰囲気を感じ、の良い屋外でご提供しました。

真っ赤に茹で上がったザリガニを中心に、スウェーデンならではのさまざまな料理が会場に並ぶと、訪れた多くの来場者からは歓声が。晴天にも恵まれたこの日は会話と笑顔が絶えず、参加者同士の交流も深まって、楽しく思い出深いひとときとなりました。

スウェーデンではザリガニは珍味として親しまれており、夏の終わりの風物詩でもあります。日本では「泥臭い」「食用には向かない」というイメージを持つ人も多いようですが、阿寒湖の自然豊かな環境で育った新鮮なザリガニは驚くほどのおいしさ。デイルをきかせたスウェーデンスタイルの味付けが好評で、おかわりをする方も。さっぱりとした味わいにバニラがほんのり香る「ルバーブジュース」も大人気でした。スウェーデンの食文化への関心と理解がさらに広がったことを感じられるイベントとなりました。



料理を担当したSCFのトーベ。「スウェーデンにはおいしいものがたくさんありますよ！ご来場ありがとうございました」



写真上／お手伝いいただいた株式会社スウェーデンハウス北海道支社の皆さん 中／ザリガニのほかにもスウェーデン料理をご用意。ディル風味のじゃがいもが人気でした 下／おかわりもご用意しました。ザリガニハットにエプロンはお約束！

ザリガニパーティは「手づかみ」がスウェーデン流のお行儀です。あちこちのテーブルから「スコール（乾杯！）」の声が聞こえました



Kräftskiva 2024 *menu*

メインディッシュ
阿寒湖の茹でザリガニ
ミートボールにブラウンソース

サイドディッシュ
当別町産ジャガイモ
わさび味クリームのゆで卵
キャベツサラダ
生野菜のミックスサラダ

デザート
スウェーデン風チーズケーキ

お飲み物
ルバブジュース





前駐スウェーデン特命全権大使 廣木重之氏 特別講演会

「女性が輝く スウェーデンから 何を学ぶか」

2024年 11月3日(日)

会場 スウェーデン交流センター
センターホール2F

前駐スウェーデン特命全権大使の廣木重之氏をお迎えして、特別講演会を開催しました。廣木氏は米国、オランダ、英国等で外交官として活躍後、在ニューヨーク日本国総領事、外務省儀典長等を歴任され、2018年から2021年にかけて、駐スウェーデン特命全権大使を務められました。スウェーデンについてよく聞かれることとして、「充実した福祉政策と高い経済成長の両立がなぜ可能か」という問いがあるとし、大事な鍵のひとつとして「女性の活躍」が欠かせないと語る廣木氏。スウェーデンの男女平等社会の歴史を解説しながら、さまざまな事例をわかりやすく、ユーモアも交えてご紹介いただきました。本題に入る前には会場をまわりながらスウェーデンの印象について参加者ひとりひとりに質問。講演後の質疑応答でも丁寧にお答えくださるなど、講師との距離の近さを感じさせる講演会となりました。参加者からは、「スウェーデン社会から学ぶべき点が多くあることを知った」などの感想がありました。



令和6年度第2回理事会を開催しました。上半期の交流・広報・工房・販売各事業の実施状況、上半期の収支状況についての報告と、理事会顧問の委嘱についての決議が行われました。

日時 令和6年11月25日(月)
会場 北海道国際交流・協力総合センター
(HIECC) 特別会議室
内容 令和6年度上半期事業報告、令和6年度上半期収支報告、顧問の委嘱について

一般財団法人スウェーデン交流センター
令和6年度 第2回理事会
を開催しました

スウェーデン Sweden マラソン Marathon



左上 / 塗り絵のモチーフはダーラヘスト
左下 / 寒さに負けずクツプを楽しむ子どもたち
右上 / ゴールを目指して全力疾走するSCFの宮嶋
右下 / 塗り絵コーナーを担当した南出専務

北の風感じて

今年もスウェーデンマラソンが10月20日、当別町スウェーデンヒルズで開催されました。マラソンの当日には急に気温が下がり、肌寒い7℃となりましたが、約1800人のランナーたちは冷たい風に負けず、それぞれのペースで力強い走りを見せてくれました。

スウェーデン交流センターは会場にスウェーデンの伝統ゲーム「クツプ」の体験コーナーや絵塗りのブースを用意し、来場者楽しんでいただきました。また、毎年参加している職員の宮嶋も寒さに負けず完走し、ランナーとしても大会を盛り上げました。

今年もたくさんの笑顔と感動に包まれた一日となりました。

スウェーデンヒルズの美しい秋の景色の中、ペースメーカーに合わせて一団となって走るランナーたち





最優秀賞の JOYMY のメンバー



スウェーデン

Sweden

ソング

コンテスト

Song Contest

音楽でつながる文化の架け橋

2024年11月2日(土)、第4回スウェーデンソングコンテスト」が北海学園大学ホール(札幌市)を会場に開催されました。日本・スウェーデン外交関係樹立150周年を記念して2018年に始まったこのイベントは、歌を通じて北海道の人々にスウェーデンを紹介することを目的に、北海道スウェーデン協会の主催により開催されています。年々参加者や観客も増え、今年は6組が出場。スウェーデン交流センターは特別審査員として参加しました。

コンテストでは、スウェーデンのアーティストの楽曲や民謡、スウェーデン人作曲家が手がけた世界的なヒットソングが披露され、出場者たちは個性豊かなパフォーマンスで会場を盛り上げました。審査の結果、三人組グループ「JOYMY」が最優秀賞を獲得。最後に全員でABBA「ダンシングクイーン」を歌い、にぎやかに閉会しました。

スウェーデン語で歌唱し注目を集めた泉屋昌平さん



Team Sweden House



特別賞を受賞した北海道北欧ケルト音楽大好きの会



音楽集団ずばらーず



佐藤誠十さん



スウェーデン関連書籍紹介

北欧！自由気ままに子連れ旅

織田 博子 作

株式会社イースト・プレス／2019年4月／A5・176p／定価1,210円（税込）

これまで”女一匹”であちこち旅をしてきた著者。結婚＆出産を経て「もう旅は当分行けないな…」なんて思っていたけれど、育児が少し落ち着くと、元来の旅好きの血が騒ぎ出しました。「そうだ！北欧へ行こう！」そう思い立った著者は、1歳半の息子連れて、夏真っ盛りの北欧はスウェーデンに向かいます。鮮やかな緑の公園でピクニックしたり、ベリーを摘みに出かけたり…、これまでバタバタだった日常を忘れ、ゆっくりのんびり北欧を堪能。社会福祉が充実した北欧は、子連れ旅にもやさしく、至れり尽くせり。そんな穏やかな旅を楽しむうちに、日本での慌ただしい育児の中で、息子の顔をじっくりと眺める時間がなかったことに気づきます。―――他、子連れでも快適な旅をするための、ヒントもたくさん！



シッゲのおうちはどこ？

スティーナ・ヴィルセン／セーブ・ザ・チルドレン・スウェーデン 作
きただ いりこ 訳

子どもの未来社／2024年7月／A5・60p／定価1,870円（税込）

この絵本は、セーブ・ザ・チルドレン・スウェーデンの児童福祉司と、画家・絵本作家のスティーナ・ヴィルセンさんによってつくられました。

日本は子どもの権利条約に批准して2024年で30年になりましたが、子どもの権利がじゅうぶんに守られているとは決していえないのが現状です。少年シッゲの物語を知るとは、同じような環境にいる子どもを上げますだけではなく、大人や恵まれた環境にいる子どもたちにとっても大切です。この本が多くの人たちに届き、子どもの権利について考えるきっかけになりますように。

<あらすじ>

ある日、知らない大人が家にやってきて、シッゲと母親を別々の場所に連れていきます。シッゲは里親に引き取られて成長して……。ネグレクトの問題や里親制度などを背景に、子どもの心の動きを丁寧に伝えます。



中西印刷さん広告

Ska vi Fika?

フィーカしましょ！



スウェーデンの文化を語る上で「フィーカ」は欠かせないもの。単なるおやつの時間というだけでなく、友達や同僚とのコミュニケーションの時間として大切にされています。自宅で簡単に作れておいしい、フィーカ定番のお菓子を紹介します。

大人も子どもも
大好きな「チョコレート
ボール」は季節を問わず
人気です！



Chokladbollar

ホクラードボツラル

材 料

※約15個分

- ・バター(室温) 100g
- ・オートミール 350ml
- ・砂糖 100ml
- ・ココアパウダー 大さじ2
- ・冷ましたコーヒー 大さじ2(濃いめ)
- ・サラダ油 大さじ1
- ・バニラシュガー 小さじ15
(またはバニラエッセンス 少々)
- ・塩 ひとつまみ
- <仕上げ用>
・ココナッツフレーク 30g



作り方

★ バターはあらかじめ冷蔵庫から出し、室温にしておきます。
コーヒーは濃いめに用意し、冷ましておきます。

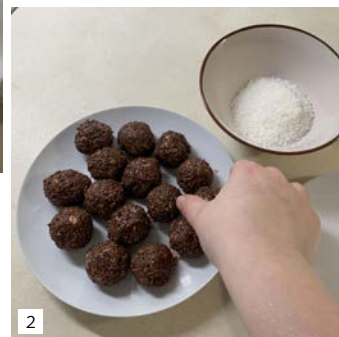
1. ボウルに、ココナッツ以外のすべての材料を入れ、よく混ぜ合わせます。生地はやや湿り気がある状態が理想です。
(仕上げのココナッツがつきやすくなります)
2. 生地を20～30gくらいずつ手にとり、丸めてボール状にして、ココナッツフレークをまぶします。
(生地がまとまりにくい場合は、冷蔵庫で15分くらい冷やしてください。)
3. 密閉容器に入れるか、ラップをかけて乾燥を防ぎ、冷蔵庫で1時間以上冷やします。

★冷蔵庫で約2週間保存可能ですが、数日たつと少し乾燥してくる場合があります。また、冷凍保存も可能です。

★コーヒーはインスタントでもOK。仕上げのココナッツフレークの代わりにパールシュガーも人気があります。



オートミールを手で
押しつぶすように
まとめます。



直径3センチくらいが
よくあるサイズ。でも
大きさは好みで！

Lycka till!



スウェーデン交流センターの「フィーカ」に参加しませんか？
コーヒーや紅茶とお菓子を楽しみながら、スウェーデンの
いろいろなトピックでおしゃべりしましょう！
ご来館をお待ちしております！

※2025年から日にちが変わります。

「フィーカ」 毎月第1日曜日 14:15 ～ 15:30
会場 スウェーデン交流センター センターホール

お申し込み・お問い合わせは
info@swedishcenter.or.jp / 0133-26-2360 (火曜休)

参加費
500円

SCF の
イベント情報は
インスタで！



スウェーデン土産の定番中の定番、世界中で愛される木彫の馬、ダーラヘスト。13cm 5,390円～



スウェーデン直輸入の可愛いインテリア雑貨も多数。ダーラヘストのキャンドルホルダー 1,650円、コースター4枚セット 1,760円



スウェーデン交流センターのオンラインショップ

mycket
ミュッケ

センターホール内ショップでお取り扱い中の商品は、SCFのオンラインショップ「mycket (ミュッケ)」でもお求めいただけます！

SCFガラス工房の作品はもちろん、人気のダーラヘストをはじめとしたスウェーデンの工芸品や、スウェーデンらしいデザインの雑貨を取り揃えております。新アイテムも続々入荷中！

気になるアイテムを保存できる「お気に入り」機能や、再入荷お知らせ機能など便利にお使いいただけます。SCF賛助会員の皆様には優待価格の特典もございますので、ぜひご利用ください。

皆様のご利用を心よりお待ちしております！

<https://mycket.stores.jp>



スウェーデン家庭料理 料理教室

スウェーデン料理はミートボールとスールストレミングだけではありません！スウェーデンの家庭料理をご紹介します今回の料理教室では、木曜日の定番、豚肉入りの豆スープとスウェーデン風クレープを作ります。ぜひご参加ください！

- ・豚肉入り豆スープ「エットソッパ」
 - ・スウェーデン風クレープ「パンカーコル」
- 講師 トーベ・ケネスコグ(SCF職員)

Ärtsoppa
&
Pannkakor

2025年1月25日(土) 10:00～13:00

- ◆会場 西当別コミュニティセンター 調理室
- ◆参加費 2,500円(材料費・税込) ◆定員 8名
- ★1月22日(水)までにお申し込みください。

SCFのイベントへの
お問い合わせ、お申し込みは
info@swedishcenter.or.jp
(0133) 26-2360 (火曜休館)

ペーパーウェイト制作体験



毎月第2土曜日に開催中！

(10:00～12:30 / 30分毎/各日定員6名)

場所 スウェーデン交流センター
ガラス工芸工房

料金 ￥2,500 (税込)

対象 小学生以上 (小学生は保護者の同伴が必要です)
(※大人だけでもご参加いただけます！)

- ・ご希望日の1週間前までに、時間帯をご予約ください。スタッフが空き状況をご案内いたします。
- ・お支払いは当日承ります。(現金・カード・QRコード決済対応)
- ・キャンセルの場合は当日でも必ずご連絡をお願いします。

まるで絵本の中のように。

札幌郊外の丘に北欧の街並。
スウェーデンヒルズ。

大都市近郊でありながら自然に囲まれた美しい街並。
「人が人らしく、自然と調和して豊かに暮らす」を理想に、
スウェーデンの住環境を再現した住宅地として誕生以来40年。
美しい風景の中で約500家族のくらしが息づいています。

0120-242-522

スウェーデンヒルズ

検索

賛助会員入会のお願い

一般財団法人スウェーデン交流センターは、ガラス作品や木工作品の制作などを通して多方面での交流を行うとともに、夏至祭、ルシア祭、各種展覧会、ザリガニパーティーなど、年間を通して様々な催しを行い、スウェーデン文化の紹介を積極的に行なっています。

これらの催しは、当センターの趣旨にご賛同くださる皆様が賛助会員としてその運営基盤をささえてくださっており、毎回の催し等は、広報誌「ビョルク」にも掲載し、賛助会員の皆様には、年2回ご自宅まで郵送、いち早く情報提供しています。

ぜひ賛助会員にご入会下さいますよう、お願いいたします。

賛助個人会員 年会費 一口 5,000円

賛助法人会員 年会費 一口 20,000円

詳しくはQRコードよりSCFホームページをご覧ください。

SCFの最新情報はSNSでも配信しています。
ぜひフォローしてください！

